あいさつ

中央区教育委員会教育長 高橋 春雄

平成20年3月に告示された新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得し、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが重視されるとともに、学習意欲の向上を図ることが改訂の基本方針として掲げられ、現在、全国の学校がその趣旨を踏まえた様々な取り組みを始めているところです。

また、OECD（経済協力開発機構）のPIISA調査などからは、我が国の子どもたちが、思考力・判断力・表現力等を問う「読解力」や知識・技能を実生活の様々な場面で「活用を図る力」に課題があると指摘されており、その背景には、子どもたちの学習意欲の問題だけでなく家庭における学習習慣・生活習慣のあり方にも課題があると指摘されています。

こうした中、日本橋中学校では、平成20・21年度中央区教育委員会研究奨励校及び平成20・21・22年度文部科学省学力向上実践研究推進校として、「基礎学力の確かな定着と向上を目指した指導法の改善－読解力・思考力・判断力・表現力の育成と評価の工夫、学業指導の充実を通して－」を研究主題に設定し、全教科を通して研究に取り組んできました。この度、2年間の研究をまとめられ、その成果を発表していただけることに対しまして、心より感謝申し上げます。

本校の研究の特色は、

- (1) 年間6つの学習区分による個に応じた指導内容・指導方法に関する研究
- (2) 学習区分ごとの学習相談・面談を生徒・保護者に行うなど学習意欲の維持・向上を図るための研究
- (3) 「生活と学習のサブリノート」の活用をはじめとした学習習慣や生活習慣の確立を図るための研究

の3つの総合的な観点から、研究主題の具現化に取り組んでこられたことです。これらの研究は、新学習指導要領の趣旨を踏まえつつ確かな学力の育成を図ったものであるとともに、各方面から指摘されている学習意欲や生活習慣などの課題に対しても、学校・生徒・保護者の取り組みにより解決を図ろうとする多くの提言がなされた意義あるものと確信しております。

2年間の取り組みにより、本校の授業改善が図られ、生徒一人ひとりが意欲的に学習に取り組む態度と確かな学力が着実に身に付いていることはもとより、学力向上を目指した学校と保護者との一層の連携が深まっていると伺っております。

今後、本校でのさらなる研究実践を期待しますとともに、本研究の成果が区内外の学校で広く活用されますことを切に願っております。

結びに、本校の研究にご指導を賜りました帝京大学教授 浦野 東洋一先生、東京農業大学教授 緑川 哲夫先生、相模女子大学教授 佐藤 道幸先生、帝京大学准教授 石橋 昭先生をはじめ、本校の研究を支えてくださった皆様には、心から感謝申し上げます。また、熱心に本研究を積み上げてこられました、田部井 重雄校長をはじめとする教職員の皆様に御礼申し上げます。